

2021年5月野菜概況

西日本の降水量はかなり多く、北・東日本日本海側の日照時間はかなり少なかった。

5月は天候が崩れる日が多く、朝晩の低気温が目立った。販売面ではGW前には引合い強まる感があったものの、連休後には引合い落ち着き、相場の下がる品目が多かった。5月の野菜総入荷量は122,610t(前年比96%)で平年より1割少なく、価格251円(102%)は平年よりやや高い。金額は30,743百万円(98%)で平年をやや下回った。

だいこんは温暖なことで千葉産が前進出荷されたことにより上旬から数量減。中旬以降は青森・北海道産が徐々に始めるも全体量は少なめの出回り。総入荷量は平年より1割以上少ないが価格82円(77%)は平年の1割安。**にんじん**は徳島産が順調に入荷。中旬からは終盤に向かい減少するも千葉・埼玉産が増量し数量十分な出回り。総入荷量は平年より1割少ないが価格143円(100%)は平年並み。

はくさいは茨城産が順调入荷。前進傾向で中旬からは減少傾向となるも長野産が漸増。全体量としては多くなかったが需要期過ぎて引合い弱く安値基調。総入荷量は平年並みだが価格47円(45%)は平年より3割近く安。**キャベツ**は神奈川県産が終盤に向け減少するも千葉・愛知産が順调入荷。茨城産も増量が続き全体量は十分で安値基調。総入荷量は平年並み、価格64円(50%)は平年の3割安。**ほうれんそう**は群馬・茨城産が上旬に出荷の山場となり増量。潤沢な出回りから相場下落した。中旬からは天候不順もあり数量落ち着き、荷動きは良好だった。総入荷量は平年より1割近く多く、価格372円(87%)は平年より1割以上安。**ねぎ**は千葉・茨城産が生育順調で太め傾向。月を通して数量十分で荷動きは鈍かった。総入荷量は平年並み、価格415円(100%)は平年並み。**レタス**は茨城・兵庫産がピークを過ぎて減少へ。後続の長野・群馬産が増量して上旬は荷動き鈍化から相場下落。中旬以降は群馬産での干ばつや長野高冷地での低温による生育遅れから数量不足となり相場は上昇した。総入荷量は平年より2割少なく、価格135円(96%)は平年並み。

きゅうりは群馬・埼玉等の関東産が出荷ピークを過ぎたことや天候不順から落ち着いた出回りに。東北産が出始め漸増するも下旬には絶対量不足となり相場上昇が続いた。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格257円(104%)は平年よりやや高い。**なす類**は高知・福岡・栃木産の出回りで、天候不良から全体量は多くなかったが荷動きは停滞。下旬には高知産での数量減や品質低下もあり不足して相場上昇し、関東産への移行が進んだ。総入荷量は平年より1割近く少なく、価格394円(105%)は平年並み。**トマト**は熊本・栃木・千葉産が順調に入荷し月を通して数量は十分であった。下旬は熊本産が盛期を過ぎて減少したことや価格がこなれたことから荷動きが出た。総入荷量は平年より1割少なく、価格283円(106%)は平年よりやや高い。**ピーマン**は茨城・高知・宮崎産が概ね順调入荷。荷動きは停滞気味だったが下旬には天候不良から出回り少なく引合いが強まった。総入荷量は平年よりやや少なく、価格396円(81%)は平年よりやや高い。

ばれいしょ類は鹿児島・長崎産が降雨により掘り取りが停滞し、上旬は前月に続き少ない出回りから高値推移。中旬からは鹿児島産が終盤で減少するも、長崎産の掘り取り・出荷が復調。静岡産も出始め増量したことから滞荷が進んで相場下落となった。総入荷量は平年より1割近く少なく、価格287円(124%)は平年の7割近く高い。**たまねぎ**は佐賀・兵庫産が降雨多く出荷が少ないことから高値推移。兵庫産は大玉傾向が顕著、長雨から風乾が甘く品質低下し、量販需要の減退により荷動きが鈍化した。総入荷量は平年より2割以上少なく、価格101円(215%)は平年の2割高い。

【輸入野菜】かぼちゃは前年にメキシコが雹害や大雨による不作で少なかったことから前年比で大幅増。ばれいしょは前年に米国産が少なかったことから前年比で大幅増。ごぼうは2020年秋作が作柄良好だったため前年より大幅増。一方、キャベツはコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安値となったことに加え、コンテナ不足や海運コストの上昇もあり中国産を中心に前年比大幅減。